

講義名	スポーツ科学演習 A (バドミントン/バレーボール)		
担当教員	森下 純弘		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	演習

履修開始年次	1年生	単位数	2	備考	
--------	-----	-----	---	----	--

主題と概要

講義内のスポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し実践力を高めるとともに、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題(体験)を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法を身につけることを狙いとす。
グループ学習による演技を中心に行い、理論については講義並びにグループ討議を行う。
各スポーツに対するルール理解、技術・戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組む。
スポーツの楽しさを体験し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力の育成。

到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
2. 競技やルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。
3. 応用技術、基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。

提出課題

必要な場合のみ、課題の提出を求める。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

それぞれの課題に対して、講義で講評・解説等を行う。

評価の基準

授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
授業中の評価: 受講態度など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80%
中間期の評価: レポート課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%
期末期の評価: レポート提出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%

履修にあたっての注意・助言他

初回ガイダンス時の説明は重要です。
スライドを用いての説明の為、欠席されると初回以後の説明が出来ませんので注意してください。
また、スポーツが苦手な者も楽しんで講義に参加し、体力の維持向上に意欲を持って頂きたい。

教科書	.使用しない。				
-----	---------	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献

講義内容により、適宜プリントを配布する。

授業計画

履修者数やグループ数・メンバー数に応じる為、下記は一例となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個人技術の習得
- 第3回 個人技術の習得
- 第4回 チームプレーの習得
- 第5回 チームプレーの習得
- 第6回 競技ゲームの企画運営
- 第7回 競技ゲームの企画運営
- 第8回 スポーツインテグリティを考える(講義)
- 第9回 個人技術の習得
- 第10回 個人技術の習得
- 第11回 チームプレーの習得
- 第12回 チームプレーの習得
- 第13回 競技ゲームの企画運営
- 第14回 競技ゲームの企画運営
- 第15回 まとめ

新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。その場合には、到達目標を優先するため内容を変更することがある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

ルールや技術、練習方法について、4時間程度で良いので本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質：能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。
集団や個人でスポーツ実践へ取り組む中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ、のびのび、へこたれず」の精神を養むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。
生涯にわたってスポーツと関わりたり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。
以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

「本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。」
ただし、「新型コロナウイルス予防対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合には、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること。」

実務経験の有無及び活用

備考